るNAS（ネットワーク接続ハードディスク）にバックアップデータが毎晩コピーされるので万が一ここのサーバが壊れても大丈夫です」

じゃあ、もしも停電してしまったら？

堀井「UPS（無停電電源装置）があるので大丈夫です。停電したらUPSのバッテリーによって30分間はサーバが稼働します。病院全体の自家発電装置が停電後30分以内に作動し始めますから、その後も大丈夫です」

UPS（無停電電源装置）のひとつ

二重三重にセキュリティ対策がなされていて、よほどのコトが起きても電子カルテはダウンしなさそうである。

ところでサーバってパソコンとどう違うんですか？

堀井「何百台というパソコンからのアクセスに耐えられる設計になっていますから、とにかくスペックが全然違います。1台のサーバには2個のハードディスクが入っていて、それらも常に同期しているんです。データの処理能力と堅牢性が違うということになるでしょうか」

これだけハイスペックだとお値段のほうも張りそうですけど、お幾らくらいするんですか？

増田「詳しくは分かりませんが、サーバ自体は1台あたり数十万円で、それを10台ほど運用しているので、合計で数百万円程度でしょう。ただ、電子カルテのシステムや保守まで入れるとそれこそ億単位の金額になりますし価格は一概に言えないんです」

筆者のようなシロウトの質問は得てして的外れになりがちである。

ところで、このへんのスパゲティというか釜揚げうどんみたいなコードは何ですか？

釜揚げうどんのようなスイッチングハブ

堀井「これはスイッチングハブと言って、病院全体に枝分かれしている無線LANのアンテナや有線LANのコンセントにつながっています。家庭用のルータの大きい版ですね」

その他、インターネットへの接続ルータの管理や、待合いモニター（待合ホールの液晶画面）のサーバ管理なども行っているとのこと。

仕事に対する想いをうかがう

お仕事のうえで気をつけてらっしゃることはありますか？

増田「やはりセキュリティです。専用回線を引いて今回ご説明したような対策を講じているほか、ウイルス対策を行ったり、職員の皆さんのUSBメモリを定期的に一斉チェックしたりしています。ただ、これらは私たちだけではなく、職員の皆さんにも日ごろから意識して気を付けてもらう必要があります」

堀井「あとは仕事をいかに早くするかですね。例えば診察中にドクターのパソコンが壊れたとなれば、すぐ現場に駆けつけて対応します。そのほうが少しでも患者さんをお待たせずに済みますから」

お仕事されていて嬉しいことは？

増田「やはり問題を解決できたときでしょうか。職員さんからの要望に応えられたときは満足感があります」

堀井「それが結果的に患者さんのためになる場合もあるので、なおさらですね」

逆に大変なことは？

増田「新しい事柄がどんどん入ってくることですかね。サーバの仮想化とか、VTI（仮想トンネルインターフェイス）とか……。頭が痛いですわ（笑）」

堀井「自分はメーカーの者ではないので、不具合の原因を特定するのに難儀することはありますね」

お仕事での必須アイテムなんかはあったりしますか？

増田「なんと言ってもインターネットです。トラブルがあったらまずは検索エンジンで調べます。パソコンの分解方法まで紹介してあったりしますから助かりますね」

堀井「個人的には熱で消せるボールペン、フリクションボールが手放せません（笑）。シャーペンよりも滑らかに書けてすぐ消せるのでメモ書きに最高なんです」

それってどんなのですか？

堀井「これです。もともと増田さんに教えてもらったんですよ」

ご両人とも愛用のフリクションボール

たしかに増田さん、堀井さんともに揃って愛用されている。ITシステム管理室を支えているのはこのボールペンだったのか！

二人でお揃いのボールペンってとても仲良しですね（笑）。ひょっとして……。

堀井「やめてくださいよ～。でも僕ら二人、デスクは隣り合わせですけど、相手が隣に座っているときでも連絡はメールで行うという、チョットおかしな関係なんです」

ええっ？　実は険悪な仲とか！？　それともツンデレ？？

増田「いやいや、そうじゃないんです。情報をテキストとして蓄積していくためには、メールでやりとりしたほうが効率的なんですよ。同様のトラブルが過去にもあれば、そのときの対処法が参考になったりしますから」

……こんな微妙なカンケイ（？）のメンズ2名コンビで日々業務をこなしてらっしゃるITシステム管理室。これからも当病院の電子カルテやコンピュータを、どうかよろしくお願いしま～す！。

（取材と原稿／臨床心理士・名倉）

取材協力

堀井隆行（ほりい たかゆき）　増田次郎（ますだ じろう）